

実施計画事業名		高齢者在宅介護支援事業		評価対象年度	平成 23 年度		
評価担当部署		生活福祉部介護高齢課		課長(主幹)名	山崎 智		
総合計画体系	分野	2	保健・医療・福祉				
	政策	3	支え合いだれもが安心して暮らせるまちづくり				
	施策	2	高齢者福祉を推進します				
	関連施策						
現状と課題	介護認定を受けている高齢者のうち、在宅で介護されている高齢者は増加の傾向にある。また高齢者だけの世帯も増え、安心して生活を継続できるようサービスの提供が必要である。そのため、本市では、介護保険の給付以外に、在宅での生活を支える各種のサービスを実施している。						
目的	一人暮らしや高齢者のみの生活で不安を抱える高齢者や、介護が必要になった高齢者等が、住み慣れた地域で安心して生活を送ることができる						
5ヶ年開の施策展開	◆一人暮らしや高齢者夫婦世帯等への支援……あんしんコールの設置、安否確認(愛のふれあい訪問) ◆虚弱な高齢者等への支援……ヘルパーサービスやデイサービス等の提供、緊急通報装置の給付、白内障装置の給付、配食サービスの提供 ◆介護が必要な方、家族への支援……公共交通機関の利用が困難な方への外出支援、理美容サービスや歯科診査を訪問で実施、低所得の重度要介護者への訪問・通所系サービスの提供、訪問介護サービス利用者への助成、家族介護用品の支給、家族介護慰労金の支給、家族介護教室の開催 ◆その他……在宅介護支援センターの運営、防火査察の実施、地域密着型サービス等を提供する基盤整備(施設) ※次期介護保険事業計画等の策定作業の中で、H24以降のサービス体系を見直す予定						
成果指標	名称		単位	22年度	23年度	25年度	
	在宅で生活する高齢者の割合		%	目標 96.8	96.8	97	
説明	(介護保険被保険者数-施設介護サービス受給者数)/介護保険被保険者数×100 ※いずれも「介護保険事業状況報告書」(各年度2月分)による第1号被保険者分			実績 96.6	96.8		
活動指標	名称		単位	22年度	23年度	25年度	
	地域密着型サービスの定員数		人	目標 118	107	107	
	説明	認知症対応型グループホーム、特定施設(定員29名以下)、介護老人福祉施設(定員29名以下)の各定員の合計数(第4期介護保険計画)		実績 89	107		
	在宅介護支援センター利用者数		人	目標 3,750	3,750	3,750	
	説明	市内4ヶ所の在宅介護支援センターの1年間の延べ利用者数の合計		実績 3,800	4,683		
	緊急通報装置給付世帯数		世帯	目標 75	75	75	
	説明	緊急通報装置を給付している世帯数(毎年4月1日)		実績 63	56		
家族介護用品支給事業の利用者数		人	目標 52	52	52		
説明	利用実人数(毎年4月1日)		実績 61	59			
事業費の実績		単位	22年度(決算)	23年度(評価年度決算見込)	24年度(予算)	備考	
	直接事業費(A)		千円	106,078	33,220	27,761	
	国庫支出金		千円	1,758	1,763	2,108	
	道支出金		千円	83,860	12,015	3,230	
	起債		千円	0	0	0	
	その他		千円	4,013	4,102	4,858	
	一般財源		千円	16,447	15,340	17,565	
	この事業にかかる職員数		人/年	1.69	1.77	1.77	
人件費(B)		千円	11,477	12,309	12,309		
計(A+B)		千円	117,555	45,529	40,070		
状況変化	実施計画当初(平成21年～)からの状況変化 地域密着型サービスについては、第4期介護保険事業計画において、認知症対応型グループホーム7ユニット(定員63人)の整備を行い、23年度末で7事業所、定員107人のサービス提供を確保した。						

【1次評価】

成 果	成果指標の単年度の目標値は達成できたか(単年度の目標値がない場合は、長期的な目標値を達成できそうか予測)
	a a 目標達成 b ほぼ目標どおり c 目標達成できず(目標値と大きな差がある) <cの場合は、なぜかを分析して記入する>
細 事 業 の 構 成 ・ 進 め 方	細事業の改廃や新規細事業の必要性はないか
	a a 問題なし b 検討の余地がある c 早急な改善が必要 <bまたはcの場合は、具体的な細事業名などを挙げ、問題点を記入する> 昨年度、事業の改廃を視野に入れて見直すこととした4細事業について検討し、平成24年度から「高齢者居宅介護等事業」、「高齢者デイサービス事業」の2事業を廃止することとした。
コ ス ト 効 率	各細事業の進め方について、市民との協働、他団体等との役割分担の見直し、環境への配慮など、改善の必要性はないか
	a a 問題なし b 検討の余地がある c 早急な改善が必要 <bまたはcの場合は、具体的な細事業名などを挙げ、問題点を記入する>
総 合 評 価	無駄なコストが発生していないか、投入した予算や人員に見合った効果が得られているか
	a a 問題なし b 改善の余地がある <bの場合は、具体的な細事業名などを挙げ、問題点を記入する>
総 合 評 価	A 概ね問題なし
	<A~C判定を受けての今後の方針、問題点に対する改善策などを記入する> 高齢者が可能な限り住み慣れた地域で、その方の状態像に応じ自立した日常生活が営むことができるよう、介護・医療・生活支援・住まいの4つのサービスを継続的、包括的に提供していける「地域包括ケア」体制の構築を念頭におき、各細事業を推進していきたい。

【2次評価】

成 果	a	細事業の構成	a	細事業の進め方	a	コスト効率	a
総 合 評 価	A 概ね問題なし <2次評価者の視点からコメントを記入する> 各事業のPRについて検討する。						

【内部評価委員会】

意 見	
--------	--